

2026 年 8 月 18 日

株式会社イー・ラーニング研究所

全回答者 100%が家庭での防災教育を重要視！子どもに求めるのは「判断力」と「主体性」 「家庭での防災教育と子どもの主体性に関する意識調査」

～防災知識の習得だけでなく、「命を守る判断力」と主体的に行動する力への期待が明らかに～

e-ラーニングに関するサービスの様々なコンテンツを提供する株式会社イー・ラーニング研究所（代表取締役：吉田智雄、本社：大阪府吹田市 以下、イー・ラーニング研究所）は、子どもがいる親世代を対象に「家庭での防災教育と子どもの主体性に関する意識調査」を実施いたしました。

その結果、全回答者（100%）が家庭での防災教育を重要だと認識していることが分かりました。一方で実際の取り組みは防災グッズの準備や避難場所の確認など、「備えるための対策」が中心となっていることが分かりました。家庭での防災教育は、知識を伝えるだけでなく、「命を守る判断力」や「自分で考えて行動する力」といった主体性を育むことも期待されていることがうかがえる結果となりました。

【「家庭での防災教育と子どもの主体性に関する意識調査」概要】

調査方法：紙回答

調査期間：2026年7月3日（金）～7月24日（金）

調査対象：子どもを持つ親、親族に子どもがいる方 計200人

※本リリースに関する内容をご掲載の際は、必ず「イー・ラーニング研究所調べ」と明記してください

調査結果概要

① すべての親（100%）が家庭での防災教育を重要視すると回答！

一方で、家庭での取り組みは「備えるための対策」が中心となっていることが明らかに。

⇒すべての親が家庭での防災教育を「重要」と回答し、防災教育の必要性は広く認識されていることが明らかに。一方で、日常生活の中で継続的に実践することに課題があることが読み取れる結果に。

② 約 6 割の親が「子どもは災害時に自ら考えて行動できる」と回答！

学校や地域で学んだことを家庭で共有するなど、防災への主体的な関わりも読み取れる結果に。

⇒約 6 割の親が、災害時に、子どもが自ら考えて行動できると回答。学校や地域で学んだことを家庭で共有するなど、子どもが主体的に防災に関わる様子もうかがえた。それに対し、「特にない」の回答も多く、主体的に関わる機会のさらなる広がりが期待されることがうかがえる結果に。

③ 防災教育を家庭で「継続して取り組むことが難しい」が最多！

防災教育の必要性を認識しながらも、実践方法に悩む親の姿が明らかに。

⇒親が家庭で防災教育を進める上で「継続して取り組むことが難しい」と最多に。防災教育に対する意識の高さがうかがえた一方で、家庭で継続的に実践することへの難しさを感じている親が多いことが明らかに。

④ 「命を守る判断力」が最多、「自分で考えて行動する力」が続く結果に！

防災知識の習得だけでなく、主体的に判断・行動する力への期待が明らかに。

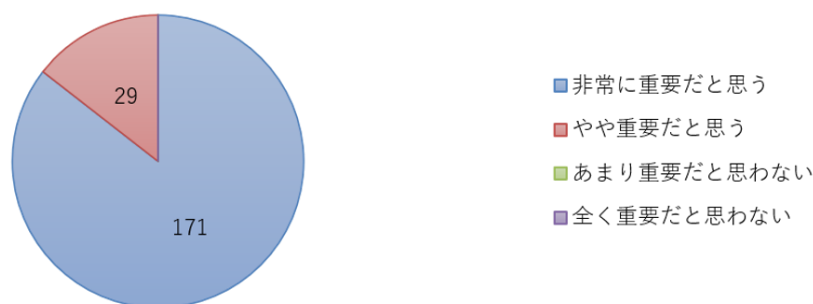
⇒親が子どもに家庭で身に付けてほしい力で「命を守る判断力」と「自分で考えて行動する力」が上位に。「情報を正しく理解する力」も続き、防災教育には知識の取得だけでなく、状況に応じて適切に判断し、周囲と協力しながら行動する力を育むことへの期待がうかがえる結果に。

1. 全ての親(100%)が家庭での防災教育を重要視すると回答！

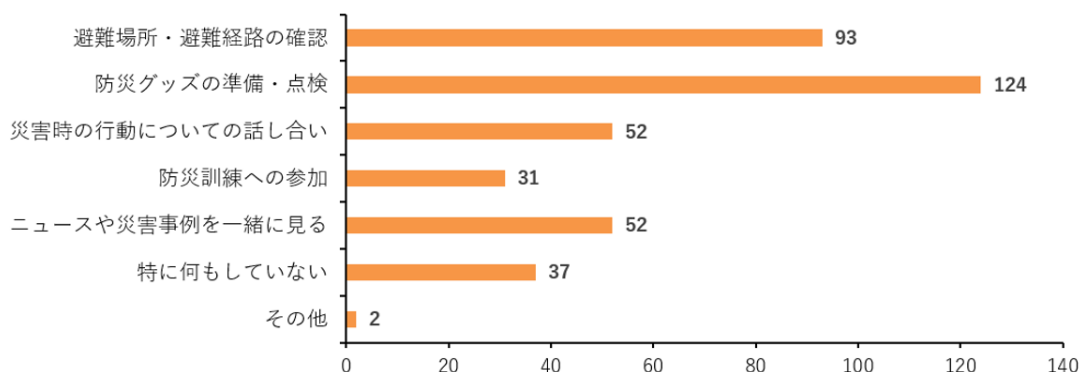
一方で、家庭での取り組みは“備えるための対策”が中心となっていることが明らかに。

「家庭での防災教育は重要だと思いますか？<SA>」と尋ねたところ、全回答者(100%)が「重要」と回答しており、防災教育の必要性は広く認識されていることが分かりました。また、「家庭で行っている防災に関する取り組みを教えてください<MA>」の質問では、「防災グッズの準備・点検」(124)が最も多く、次いで「避難場所・避難経路の確認」(93)となりました。一方で「災害時の行動について家族で話し合う」は約3割、「防災訓練への参加」は約2割にとどまりました。この結果から、家庭での防災対策は、防災用品の準備や避難場所の確認といった“備えるための対策”が中心となっていることがうかがえます。これに対し、「災害時の行動について家族で話し合う」や「防災訓練への参加」といった、実際の行動を想定した取り組みの実施割合は比較的低い傾向が見られました。

Q.家庭での防災教育は重要だと思いますか？<SA=200>



Q.家庭で行っている防災に関する取り組みを教えてください。<MA=391>



2. 約6割の親が「子どもは災害時に自ら考えて行動できる」と回答！

学校や地域で学んだことを家庭で共有するなど、防災への主体的な関わりも読み取れる結果に。

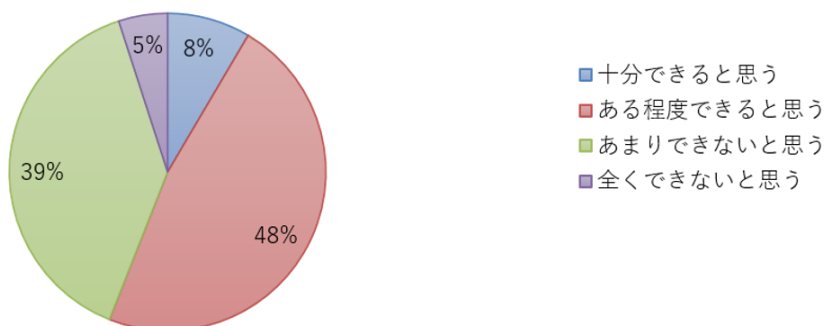
「災害時に、子どもが自ら考えて行動できると思いますか？<SA>」と尋ねたところ、「十分できると思う」(17)、「ある程度できると思う」(95)を合わせると約6割となりました。これに対し、「あまりできないと思う」(78)、「全くできないと思う」(10)を合わせると約4割となりました。

また、「これまでに、お子さまが防災に関して主体的に行動したことはありますか？<MA>」の質問では、「学校や地域で学んだことを家族に伝える」(69)、「防災グッズの準備に関わる」(39)、「避難場所や避難経路を自分で確認する」(31)となりました。ただし、「特になし」(83)が最も多い回答となりました。

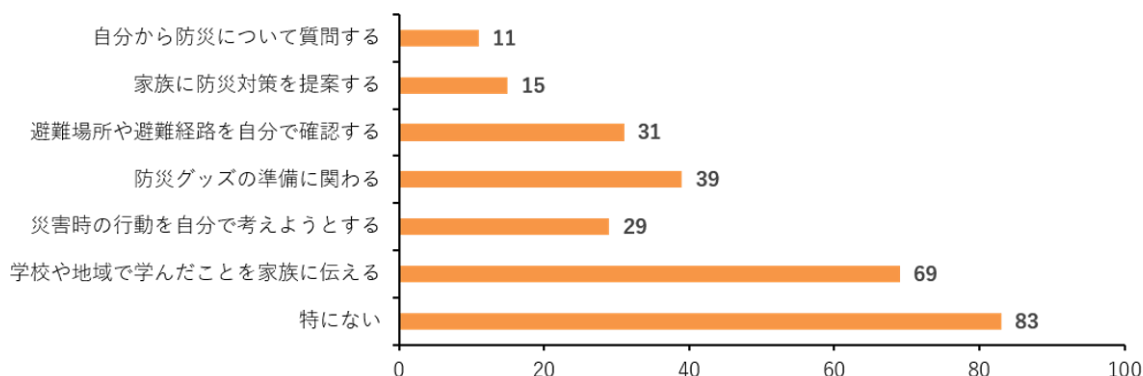
これらの結果から学校や地域で学んだことを家庭で共有したり、防災グッズの準備や避難場所の確認に関わっ

たりするなど、子どもが主体的に防災へ関わる様子が見られました。また、「特にない」と回答した親も多く、子どもが主体的に防災へ関わる機会については、今後さらに広げていくことの重要性がうかがえる結果となりました。

Q：災害時に、子どもが自ら考えて行動できると思いますか？<SA=200>



Q.これまでに、お子さまが防災に関して主体的に行動したことはありますか？<MA=277>

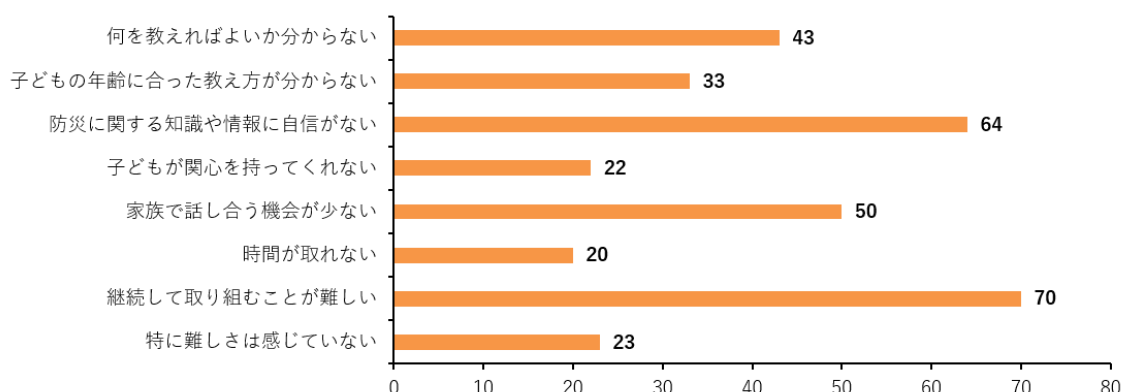


3. 防災教育を家庭で「継続して取り組むことが難しい」が最多！

防災教育の必要性を認識しながらも、実践方法に悩む親の姿が明らかに。

「家庭で防災教育を進める上で困っていることはありますか？<MA>」と尋ねたところ、「継続して取り組むことが難しい」(70)が最も多く、次いで「防災に関する知識や情報に自信がない」(64)、「家族で話し合う機会が少ない」(50)となりました。これらの結果から、防災教育の重要性は広く認識されている一方で、家庭で継続的に取り組むことや、防災に関する知識・情報、家族で話し合う機会など、実践する上で難しさを感じている親が多いことがうかがえる結果となりました。

Q：家庭で防災教育を行う上で、難しさを感じる点は何ですか？<MA=325>



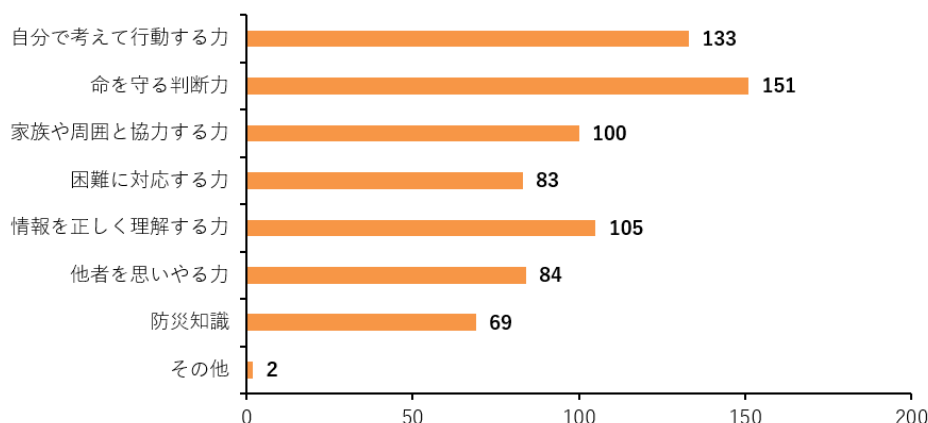
4. 「命を守る判断力」が最多、「自分で考えて行動する力」が続く結果に！

防災知識の習得だけでなく、主体的に判断・行動する力への期待が明らかに。

「家庭での防災教育によって、子どもに身につけてほしい力は何ですか？<MA>」の質問では、「命を守る判断力」(151)が最も多く、次いで「自分で考えて行動する力」(133)、「情報を正しく理解する力」(105)、「家族や周囲と協力する力」(100)となりました。

この結果から、親は子どもに対して防災教育を通じて、防災に関する知識を身につけることに加え、災害時に自ら状況を判断し、主体的に行動できる力を身につけてほしいと考えていることが分かりました。また、「情報を正しく理解する力」や「家族や周囲と協力する力」にも重視していることがうかがえ、防災教育には知識の習得だけでなく、状況に応じて適切に判断し、周囲と協力しながら行動する力を育むことへの期待がうかがえる結果となりました。

Q：家庭での防災教育によって、子どもに身につけてほしい力は何ですか？<MA=727>



【『子ども未来キャリア』概要】

『子ども未来キャリア』は、子どものときから夢や目標を持ち、グローバル社会で必要となる知識と能力を育む、キャリア教育用ボードゲーム教材です。ボードゲームを通じた疑似体験と、スライド教材を活用した学習を組み合わせた「遊び×学び」を融合した内容で、主体的に楽しく学ぶことができます。

<報道関係者各位>

- URL : <https://mirai-career.jp/>
- 販売対象 : 全国の学童施設や学習塾、学校など、教育関係の企業・組織
子ども向けの体験型イベントを開催される企業等とのコラボレーション
- 教材対象年齢 : 小学生・中学生・高校生 ※その他要相談



■学習テーマ

- ・「教育用！資産形成ゲーム」
- ・「教育用！コミュニケーションゲーム」
- ・「教育用！事業投資ゲーム」
- ・「教育用！ディスカッションゲーム」
- ・「教育用！おつかいゲーム」
- ・「教育用！情報推理ゲーム」
- ・「教育用！キャリアデザインゲーム」
- ・「教育用！多様性ゲーム」
- ・「教育用！SDGs ゲーム」
- ・「教育用！防災ゲーム」
- ・「教育用！チームワークゲーム」
- ・「教育用！リーダーシップゲーム」
- ・「教育用！シティズンシップゲーム」



【株式会社イー・ラーニング研究所】

名称 : 株式会社イー・ラーニング研究所
本社 : 大阪府吹田市江坂町 1 丁目 23-38 F&M ビル 6F
代表者 : 代表取締役 吉田智雄
URL : <https://e-ll.co.jp/>

<報道関係者お問い合わせ先>

イー・ラーニング研究所 広報担当: 鈴木・片岡

TEL:06-6339-4177 FAX:06-6339-4180 MAIL: marketing@e-ll.co.jp